

液体窒素療法で生じた 炎症後色素沈着

山下理絵 YAMASHITA Rie

湘南藤沢形成外科クリニックR総院長

1 はじめに

液体窒素療法は古くからある治療で、マイナス 196°C の液体を綿棒などに染み込ませ、患部に圧縮して、冷却する治療法である。尋常性疣贅などのウイルス性疾患に対して行われる。

また、顔面の脂漏性角化症、老人性色素斑や頸部のアークロルドンなど、見た目を改善する治療にも用いられている。しかし、他院において顔面に行った液体窒素療法で、濃い色素沈着を生じ受診される方もいる。

筆者は顔面の脂漏性角化症などの隆起性病変の治療を検討する場合、液体窒素あるいは手術による切除などの保険治療、レーザーによる自費治療を説明する。各治療の利点欠点を説明し患者に選択してもらうことが多い。液体窒素療法を行う場合は、美容的意味合いが大きいことを医師が理解して行い、患者への説明も、炎症後色素沈着 (post inflammatory hyperpigmentation ; PIH) を含め十分に行う必要がある。

しかし、病変より大きな綿棒による圧縮、および頻回の治療により、PIHを起こして別のクリニックを受診する症例は多い。隆起性病変が除去できれば満足される場合もあるが、跡形もなく消えると思って治療を受けている人、尋常性疣贅と同様に回数を重ねれば除去できると思っている人もいる。筆者は、女性患者に対しては全例、スキンケアを含めた自費診療を薦めている。男性でも多発している場合は美容的治療であることを説明し自費診療を行うことが多い。

2 液体窒素による炎症後色素沈着の治療

内服、外用、機械的摩擦禁止やUVケアによる治療から開始する。治療開始後、2～3カ月で色素は減少してくる。しかし、消失しない症例や早期に薄くしたい場合などはレーザートーンングを行っている。

1. 内服・外用治療

ビタミンC：3,000mg、ビタミンE：600mg、トラネキサム酸：1,500mgの内服薬、および5%ビタミンCローション、1%コウジ酸+2%トラネキサム酸含有クリーム、5%ハイドロキノン軟膏の外用薬などを処方し、1カ月ごとに色素斑の改善を診察する。

【症例1】30代男性。シミ治療を目的に他院で液体窒素療法を受け、PIHとなり当院を受診(図1A)。内服・外用治療を行い色素沈着は消失した(図1B)。

【症例2】60代男性。多発する脂漏性角化症治療を目的に他院で液体窒素療法を受けた。広範囲の色素沈着が生じ、放置すれば消えるといわれたが1年経過しても消失しないため当院を受診(図2A)。内服・外用治療を行い色素沈着は消失した(図2B)。

2. レーザー治療

内服・外用治療に加え、1,064nmのQスイッチNd:YAGレーザーを用い、低出力および短い間隔で照射する方法(レーザートーンング)を行っている。

【症例3】60代女性。顔面の脂漏性角化症に対して他院